

平成30年度 食と健康フォーラム

日 時 平成30年10月28日(日) 午後2時～4時

場 所 三重県歯科医師会館 2階 大会議室
※お越しの際は公共交通機関をご利用ください。

内 容 【講演1】午後2時～3時40分
演題 「口腔機能発達に支援が必要な子どもたちへの対応
～口腔機能発達不全症について～」
講師 日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック
口腔リハビリテーション科 科長 田村 文誉 先生

【講演2】午後3時40分～4時
演題 「離乳食から幼児食、学童期までの栄養の取り方と調理の工夫」
講師 公益社団法人三重県栄養士会 理事 田島 睦美 先生

※詳細は裏面をご覧ください。

申込方法 下記、参加申込書にご記入のうえ、FAXまたは郵送にて三重県歯科医師会までお申し込みください。(参加無料) **申込締切 10月20日(土)**

【会場地図】



※悪天候等により、やむなく中止となる場合は、当日の午前9時までに三重県歯科医師会ホームページに掲載します。

平成30年度 食と健康フォーラム 参加申込書

ふりがな 氏 名	電話番号
職種・所属	

お問合せ 三重県歯科医師会事務局 締切 10月20日(土)
お申し込み 〒514-0003 津市桜橋2丁目120-2 TEL059-227-6488/FAX059-227-0510

口腔機能発達に支援が必要な子どもたちへの対応 ～口腔機能発達不全症について～

講師 日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック
口腔リハビリテーション科 科長 田村 文誉 先生

平成 30 年度、口腔機能発達不全症が新規病名として保険導入されました。日本歯科医学会 HP に掲載されている「基本的考え方」では、その概念として、「すでに完成され正常な口腔機能を獲得している成人では、機能異常が生じた場合、以前に獲得し得ていた機能へ回復・訓練（リ・ハビリテーション）することで可及的に元の正常な口腔機能に復帰することができる。つまり成人の場合は、回復するための目標があるが、小児期の口腔機能は常に、機能の発達・獲得（ハビリテーション）の過程にあり、各成長のステージにおいて正常な状態も変化し、機能の発達が遅れていたり誤った機能の獲得があればその修正回復を早い段階で行うことが重要である。」と述べられています。実際の臨床では、口腔機能発達不全症の評価項目である、咀嚼機能、嚥下機能、栄養（体格）、食べ方（食行動）、構音機能、呼吸の状態、についての適切な評価を行い、対応していく、という流れになります。

本講演では、これらの評価項目についての解説と、その中でも特に定量評価が難しい「食べ方（食行動）」への支援について、皆様と一緒に考えていきたいと思えます。

【略歴】

田村文誉

東京都出身 歯科医師・歯学博士

日本歯科大学 教授

日本歯科大学附属病院

口腔リハビリテーション科 科長

口腔リハビリテーション多摩クリニック 勤務

平成元年昭和大学歯学部卒。同学部第三補綴学教室、同学部口腔衛生学を経てアラバマ大学歯学部補綴学生体材料学教室留学、日本歯科大学講師を経て 2007 年より准教授、2013 年より教授、現職

2013 年より 日本障害者歯科学会理事

2013 年より 日本歯科医学会重点研究委員長

2015 年より 日本歯科医師会地域保健委員会小児歯科保健・食育部門ワーキンググループ

2016 年より 農林水産省食育推進評価専門委員

著書：『重症児のトータルケア改訂第 2 版』『小児歯科学第 5 版』『上手に食べるために 1（共著）、2（単著）、3（共著）』、『乳幼児の摂食指導（共著）』、『介護予防のための口腔機能向上マニュアル（共著）』、『高齢者の口腔機能評価 NAVI（共著）』『Groher & Crary の嚥下障害の臨床マネジメント（共訳）』『マタニティ歯科外来（監修）』『口から診える症候群・病気（共著）』『小児の摂食嚥下リハビリテーション第 2 版（共著）』ほか

離乳食から幼児食、学童期までの栄養の取り方と調理の工夫

講師 公益社団法人 三重県栄養士会
理事 田島 睦美 先生

口腔機能の発達には食事の介助、食器具の選択、姿勢の調整などの食環境の整備とともに、発達の状態にあった食形態が提供されることが重要です。さらに味覚などの五感を育みながら楽しく食事が取れるようになることが理想です。そこで、離乳食から幼児食、学童期の成長のための栄養の取り方と調理の工夫について話を進めていきたいと思えます。